

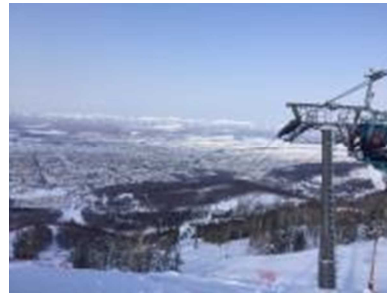
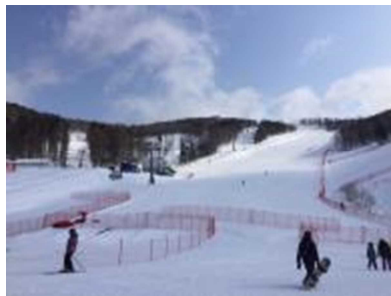
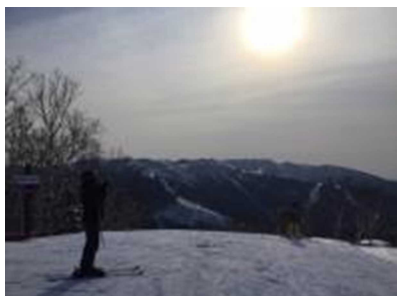
サハリン事務所現地レポート

2019年2月

(件名) サハリンの冬～スキー場編～

報告者：主査 阿部 大祐

今回は、市内郊外にある「山の空気」スキー場について報告する。「山の空気」は中心部から車で5分と絶好のアクセスである。この規模（グレンデ総距離約25km）のグレンデが街のすぐ郊外にあるのは北海道でも少ないだろう。極東からはハバロフスクやウラジオストク、韓国からもスキー客がやって来る。また、オールシーズンで観光客を迎えており、頂上から見下ろす街の景色は重要な観光スポットだ。雪質は寒冷なためパウダー・スノーを楽しめる。また、スキーヤーの傾向として、コース外の林の中や整備していないリフト下などパウダーを求めて滑る。安全面のため一般的にヘルメットを装着する。なお、スキーヤーとボーダーの割合は同じくらいだ。当初、現地でスキーを購入すべく市内スポーツ店で品定めしたが、スキーは品数も少なく価格も高かった（結局、帰国中に購入し持ってきた）。スケートやクロスカントリーの用具は比較的安く、まだウインター・スポーツとしてスキーやスノーボードはまだ普及していないようだ。リフトのチケット代は3時間券650ルーブルとリーズナブル（1ルーブル≒1.7円）。また、用具のレンタルショップも多く、スキー一式を借りて1時間あたり600ルーブル程度。経済発展の進むロシアでは、今後も所得が向上していく。そのような中、ウインター・スポーツは、冬の余暇として今後も住民の間で広まるのではないと思われる。「山の空気」は、優先的社會經濟發展区域というロシア国内の特区指定を受け、現在もグレンデ拡張、周辺では関連施設の建設が進む。来シーズンにはまた大きく様変わりしているだろう。



(件名) 「アジアの子供たち 2019」開催

報告者：主査 梶山 雅生

2019年2月8日から18日の日程で、第1回冬季国際スポーツ大会「アジアの子供たち2019」が開催されたので報告する。

本大会は、各国の関係機関でつくる組織委員会が、1996年からロシア・サハ共和国で4年ごとに開催している夏季国際スポーツ大会の冬季版として初めて企画したもので、ロシアを初め中央アジア諸国や日本、韓国など20か国から全8競技、約1,200人の選手が参加した。

ロシア国内での関心も高く、連邦政府ゴロディエツ副首相や各国の要人（高橋北海道知事含む）が参加した開会式はロシアの多くのメディアに報道された。

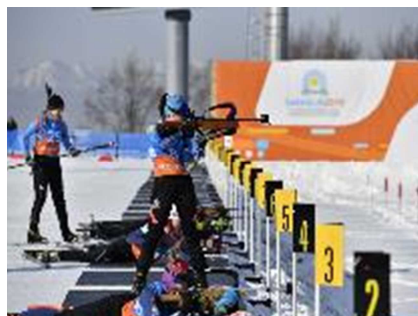
日本は、北海道からのみの参加となったが、バイアスロン、アルペンスキー、スキージャンプ、スノーボード、アイスホッケー、ショートトラックの6競技、全42名の選手が参戦、金メダル1つ（ホッケー・技能部門）、銀メダル3つ（スノーボード2つ、アルペンスキー1つ）を獲得した。

現地メディアによると、サハリン州において、これほど多くの選手が参加する国際大会の開催は初めてのことであり、選手村や競技場のために約50箇所の新旧施設が導入され、大会運営サポートや参加チームの通訳等を行う学生ボランティア（ロシア、モンゴル、中国、韓国から派遣）も1,000人以上動員されるなど、州は全勢力を挙げて大会対応にあたった。驚くことに、大会期間中に選手村等で消費された食料は1日11トンに上るとのこと。

2021年度の開催も検討されていることから、今後さらに規模が拡大され、将来のオリンピックを生むような大会になることを期待したい。



日本チーム団集合写真



バイアスロン競技風景



開会式風景